

# 異常巻アンモナイト類の分類学的研究

## ～バラバラ化石がもたらした謎に迫る～

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

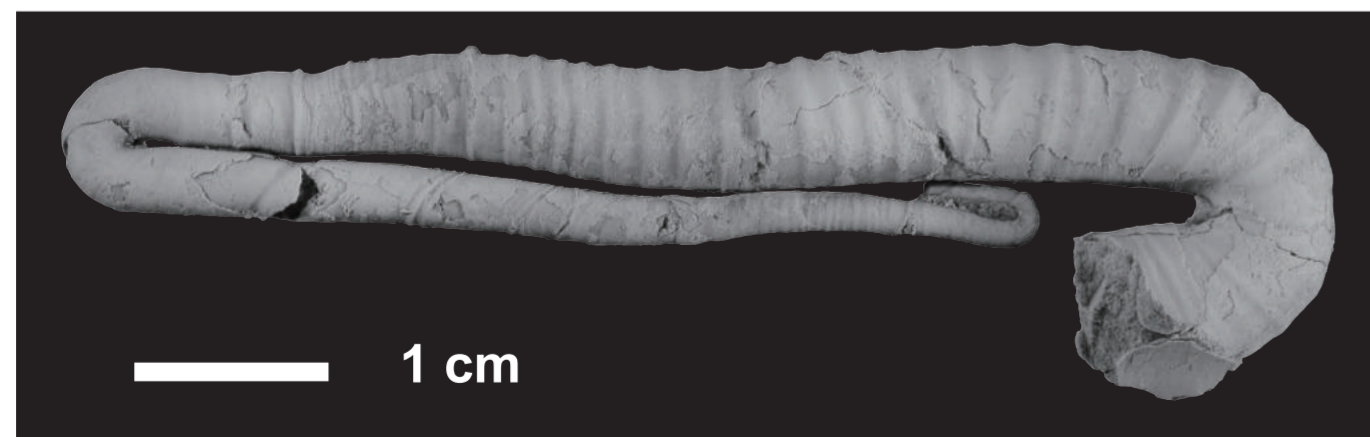
生野賢司



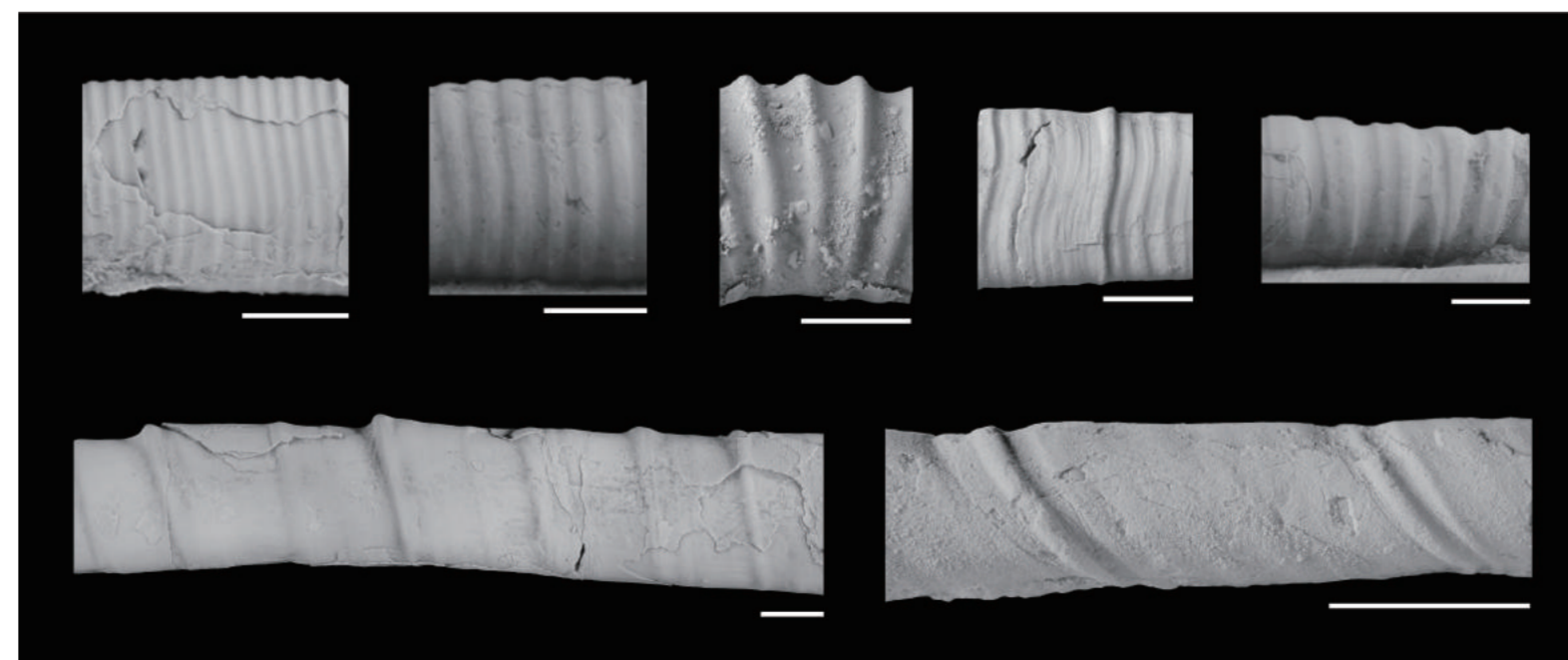
私は、白亜紀の「異常巻アンモナイト」と呼ばれる変わった形のアンモナイトについて調べています。主な研究対象は、多くの種が断片的な標本に基づいて分類された「ポリプティコセラス属」です。このグループは最初の発見後、より多くの部分が保存された化石が見つかり、分類に見直しの余地があることが指摘されてきました。というのも、この属には成長に伴って殻表面の装飾（凹凸）が著しく変化する種類がいるため、断片的な標本の情報を基準にすることで「種」を分けすぎている可能性があるのです。私は、保存状態の良い化石を多く観察することで、様々な形の違いが種による違いなのか、成長段階による違いなのか、個体差なのか、時期による違いなのか、地域差なのか、を明らかにしようとしています。化石が豊富に見つかるアンモナイトを詳しく調べることで、絶滅した動物でも、どんな特徴に注目すれば正確に分類することができるのか、過去の環境変動に対して海の生物の種類がどのように増減したのか、解き明かしていきたいと考えています。



ポリプティコセラスの部分化石。見つかる化石の大半はこのような断片です。



個体の全体が保存されたポリプティコセラスの標本。トロンボーンのような形をした殻が特徴的です。



ポリプティコセラスの殻表面に現れる装飾の例（スケールは5 mm）。1個体の殻の中に複数種類の装飾が現れることがあるため、できるだけ個体の全体が保存された標本を観察する必要があります。